

令和5年度
自己評価・自己点検結果

令和6年8月～令和6年11月実施

公表バージョン

あさくら看護学校

令和5年度あさくら看護学校 自己評価・自己点検結果

令和5年度は、1年生と2年生が新カリキュラム、3年生が旧カリキュラムでの運営となった。新カリキュラム運営と旧カリキュラムの運営で煩雑化したが、1年生のカリキュラムが2年目となっていたため比較的落ち着いて運営することができた。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に5類移行となった後も断続的に流行を繰り返した。今まで培った対策を応用することで状況に素早く対応できるようになった。年間通じて新型コロナウイルス感染症の感染の動向を見ながら、授業形態として対面授業とオンライン授業を素早く切り替えをし学生の学習の機会を担保することはできた。在宅リモートの充実、大雨等学校への登校が難しい場合も利用することができ、学生の安全確保にも役立つことが分かった。

教員の慢性的な不足による現看護教員の負担増も解消できない状態であり、経年的な組織運営計画を立てるのが難しい状況が続いている。特に令和5年度は、教員の人数として法定人数がぎりぎりの厳しい状況が生じてしまった。本校は一人ひとりの学生に丁寧に対応することをモットーとし教育活動を行っている。その中で教員の不足は、学生にとって不利益を生じさせかねない状況であり教員の安定確保システムの確立は急務であると再認識する結果となった。

ハラスメント防止規程を作成し、学生・教職員共に守るためのルールを明示した。

経営的には、令和5年度は1・2年生から新しい料金規程のもとでの授業料・施設維持費の収入があり令和4年度よりも増収益となった。令和5年度に朝倉市から住居費の補助・奨学金返還の補助・就職奨励金等の事業を立ち上げていただき令和6年度からの実施予定である。今後の入学生増に期待したい。

入学生は、40名を確保することができた。入試倍率は低い状況である。

卒業生は、36名であった。看護師国家試験に関しては、国家試験対策の抜本的な立て直しを行う必要性を痛感する結果となった。

1.分析結果

あさくら看護学校の自己評価を行った。評価尺度は、4段階（4：良い3：ややよい2：やや不十分1：不十分）で行った。昨年と比較して上昇したのは、「Ⅰ教育理念・教育目的」3.5「Ⅱ教育目標」3.3「Ⅷ地域社会・国際交流」2.5であった。新カリキュラムの運用という事で、教育理念・教育目的、教育目標を新しく整理し直したこと、すべての教育活動に活用できるように一貫性を持たせたこと、教育理念等を改めて考え直す機会があったことなどが上昇した原因と考える。今後は、それぞれの教職員が新カリキュラムで意図することに対して具現化できる力を養っていく必要があると考える。研究は経年的に低い状況が続いている。

カテゴリー	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
Ⅰ教育理念・教育目的	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.3	3.5
Ⅱ教育目標	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	3.0	3.3
Ⅲ教育課程経営	3.0	3.3	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0
Ⅳ教授・学習・評価課程	2.4	3.1	2.9	2.7	2.7	2.9	2.9
Ⅴ経営・管理課程	2.7	3.2	3.2	3.1	3.1	3.3	3.3
Ⅵ入学	3.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	3.5
Ⅶ卒業・就業・進学	2.3	3.0	2.6	2.2	2.2	2.3	2.3
Ⅷ地域社会・国際交流	2.3	2.3	2.8	2.2	2.2	2.2	2.5
Ⅸ研究	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3

教職員は、「学校運営評価表」を使って評価を行った。結果として、8項目中6項目で評価点の上昇がみられた。「施設設備」「広報・地域活動」が昨年と比較して低くなった。「施設設備」に関しては、校舎建設後15年が経過し、いたるところに劣化がみられてきていることと、学生の学習を十分に保証する部屋の不足が低下した原因と考える。しかし、施設の安全対策として、医師会病院施設管理課に協力を願い12月に網戸等の転落のリスクを確認していただいた。また、施設の施錠管理や昼間の不審人物の侵入を防ぐ目的で、玄関の自動施錠工事を行うなど施設管理として、金銭面と安全性を考慮しながら優先順位を決めて行っている。

広報に関しては、リクルートのfor schoolを導入するなどすそ野を広げる努力を行っている。今後は、そのシステム内でできることを最大限活用することが課題であるとする。

教職員学校運営評価結果（経年）

内容	令和2年度（4名）	令和3年度（8名）	令和4年度（6名）	令和5年度（5名）
I 学校経営	3.2	3.1	3.2	3.4
II 教育課程・教育活動	2.8	3.2	3.1	3.5
III 入学・卒業対策	3.4	3.4	3.7	4.3
IV 学生生活への支援	3.2	2.9	2.8	3.3
V 管理運営・財政	3.1	2.9	2.9	3.3
VI 施設設備	3.3	3	3.3	3.2
VII 教職員の育成	2.2	2	2.3	2.7
VIII 広報・地域活動	2.4	1.7	3.6	3.1

I 教育理念・教育目的

点検1	教育理念・教育目的は自養成所の特徴を示しており、かつ法との整合性はあるか
点検2	教育理念・教育目的は学生にとって学習の指針となるように具体的に明示され、実際に指針となっているか
点検3	養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容、教育方法、教育環境を整えようとしているかを述べているか
点検4	看護、看護学教育、学生観について教師の教育活動の指針となる様に明示し、実際に指針となっているか
点検5	養成する看護師等が卒業時においてどのような資質を有するべきかを明示し、その資質は社会に対する看護の質を保証するのに妥当であるか

令和4年度入学の1年生から、新カリキュラムでの教育を実施している。

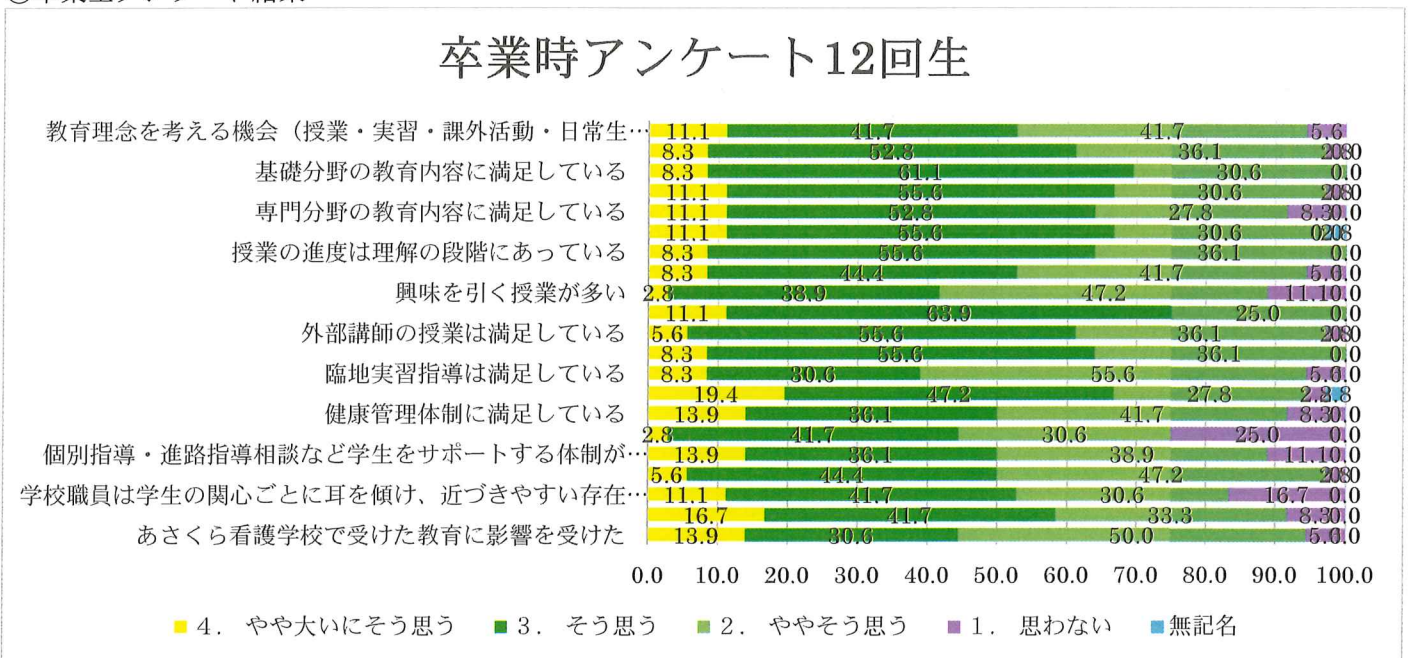
教育理念・教育目的は、旧カリキュラムでの課題を改善した上で、自養成所の特徴を示すことができていると考える。学生にとって学習の指針となるように、カリキュラムガイダンスに明示し授業内でも繰り返し伝える努力を行っている。

旧カリキュラムでの教育を受けた最後の回生の「卒業時のアンケート」である。全体的に「大いにそう思う」が減少し「思わない」のパーセントが増加している。学生の満足度が減少している原因については、多方面から原因を考え対応していく必要があると考える。

特に、本校の理念・教育方針・教育目的に明示されている、「人の尊厳を尊重する」に関して、学生がしっかり考えて行動できるために何が必要かを学生とともに共通理解し考える機会を作ることが必要であると考える

【参考資料】

①卒業生アンケート結果



あさくら看護学校で受けた教育であなたが影響を受けたと思うことを記載して下さい。

- 1 先生方の優しさに気づくことができました。
1人で不安でしたが親身に話を聞いてくれる先生、声かけてくれる先生、とても素敵な先生方でした。お世話になりました。
- 2 何事にも根拠づけていくことや、言葉の選び方により伝え方や捉え方が変わってくる（論理学等）こと。
- 3 実習指導をしていただいたことが本当に良かったと思っています
- 4 国試対策頑張ってくれてありがとうございました。
- 5 ①心理学の授業 ② 国試前授業と個別指導

II 教育目標

- | | |
|-----|--|
| 点検1 | 教育理念・教育目的と教育目標が一致しているか |
| 点検2 | 教育目標は設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとして示しているか。 |
| 点検3 | 教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示しているか |
| 点検4 | 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定しているか |
| 点検5 | 卒業後の継続教育の考え方を示したうえで看護基礎教育として教育目標を設定しているか |

医師会立の看護学校であり地域に貢献できる看護実践能力を身に着けた学生の育成を目指している。実際、今年度卒業生の77.4%が福岡県内で就職している。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたこともあり、関東への就職が若干増えた。

退学者の退学理由は様々である。1年生の退学防止については、きめ細かなメンタルケアと学習支援が必要になってくると考える。

看護師国家試験は、自分のこととしての意識を定着させるかが課題である。

来年は新カリキュラムの完成年となるため、教育の成果を評価するツールの作成を計画している。

III 教育課程経営

- | | |
|-----|---|
| 点検1 | 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価の関連性を明確に理解した上で、教育理念・教育目的に向けて一貫した活動を行っている |
| 点検2 | 看護学の内容、求める学修の到達及び学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成しているか |
| 点検3 | 科目と単元の構成にあたって、明確な考えと根拠があり、その考え方は教育理念・教育目的、教育目標と整合性があるか |
| 点検4 | 構成された科目と単元は看護師等を養成するのに妥当であり、養成所の特徴をあらわしているか |

令和4年度から新カリキュラムで教育を行っている。

教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、各教科で強化すべき能力と教育方法をつないでいるため一貫した活動の方向性は示すことができている。今回のカリキュラムでは、能力の習得を目標としている。しかし、3年間で能力の習得を行うには、全ての教育活動が意図され計画されたものを効果的に実践していくことが必要である。そのためには、教育活動を行う教職員が意図的な関わりを行う事が必要である。

自然災害の影響での休校や休講が毎年増えてきている。特に、7月の大雨・台風と冬季の雪に関しては今後も同じ状況が続く可能性があるため、学生の学習を確保しながら学習が進むような対策が必要になってくると考える。新型コロナウイルス感染症の蔓延の際整備した在宅リモートなどを活用して授業時間の確保ができる状況を工夫していきたい。また、時期的なことを考えて、あらかじめ時間割の調整をするなど対策を考えている。

- | | |
|-----|---|
| 点検5 | 単位履修の方法とその制約について、教師、学生の双方がわかるように明示し、その方法は単位の支援となっているか |
| 点検6 | 単位履修制度の考え方をふまえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように科目の配列をしているか |
| 点検7 | 単位認定の基準および方法は、看護師等に必要学修を認めるものとして十分に根拠があり、また妥当であるか。 |
| 点検8 | 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか |

カリキュラムガイダンスに明記しており、単位支援にはなっている。学修の質については、段階性だけでなく現在の看護師に求められる能力を明らかにし、詳細から全体、全体から詳細と多様な考え方を使得て科目を配列している。

点検9 教育課程を評価する体系が整っており、また結果の活用における倫理規定が明確 になっているか。

教育課程を評価する体制は、自己評価自己点検および学校関係者評価の体制を整えている。カリキュラムレビューを作成しているため、完成年である令和6年に評価予定である。

結果活用における倫理規定は明確ではない。 令和6年度作成予定である。

点検10 教員の担当科目と担当時間数は、専門性を発揮できるように配分し、かつ授業の準備をする時間がとれる体制を整えているか

点検11 教育課程の実践者である教員が、自ら成長できるための自己研鑽、相互研鑽のシステムを整えている

教員としては、9月より1名、令和6年1月に入職者1名増員を図った。担当科目の時間については当初の予定から変更になった。

他教員の自己研鑽、相互研鑽のシステムは十分に整っていない。

点検12 臨地実習施設は、各看護師等養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか

点検13 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えているか

点検14 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的に行っているか

点検15 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析し安全教育、安全対策を計画的に行っているか

主要な実習病院とは、2ヵ月に1回実習指導者会議を開き、学生の教育方法について検討を行っている。

平成29年度から母体病院の実習指導者養成研修会に学校の教員が講師として参加し教育を行っている。今年度は、臨床判断力の育成について2回に分けて実施した。

実習要綱に患者の権利擁護については、明記している。同意書の取り交わしを行っている。

2年生の実習は、短期間であり期間的にも、感染予防を行って臨地実習をすることができた。1年生は、地域・在宅看護論実習Ⅰは、新カリキュラム開始2年目でようやく企画していた実習を行う事ができた。学生は、様々な場所で生活している方々に接することで、「生活とは」「生活するとは」について考えることができていた。

基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲともに臨地での実習を実施することができた。実際に病院で患者さんと接する体験は、何にもまして学生の思考を深めることができるため臨地での実習を大切に行っていきたい。

実習中に学生に関するプライバシー関連の問題が起こった。学生自身の個人情報を守ることも意図して、昨年作成した『実習における個人情報等に関する倫理規程』を一部改変した。また、同様の状況が起こったときの対応をフローチャートの作成を行い病院と共通理解を図った。

学校の教育内容で教員と学生の認識に齟齬が生じてしまった。学生の認識のずれは、保護者の学校への不信につながるため同意と納得が得られるように丁寧に計画・実施していかなければならないと考える。

IV教授・学習・評価課程

点検1 当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容として設定しているか

点検2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか

点検3 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥協性がある内容となっているか

点検4 当該授業の内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性に明確になっているか

点検5 授業内容に応じた授業形態を選択しているか

点検6 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画に明示し、実践しているか

点検7 当該授業の展開過程のほかに、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか

点検8 学生に対し、効果的な教育指導を行うために、教員間の協力体制が明確になっているか

授業内容に応じた授業形態としては、従来から講義中心の授業だけでなくアクティブラーニングを取り入れた授

業を行っている。

授業方法として、新型コロナウイルス感染症の状況により自宅でのオンライン授業と対面授業をに切り替えて実施した。ハード面は、昨年の蓄積があり比較的スムーズにできた。

点検9 評価計画を立案、実施し、評価結果に基づいて実際に授業を改善しているか

点検10 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか

点検11 評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表（認定基準等）し、公平性があるか。

評価計画は明文化している。授業評価の実施は専任教員に義務づけられている。しかし、評価を集約することができていないため、Googleフォーム等の簡便なアンケート集約システムを活用することを考える必要がある。

評価については、卒業時の認知領域の確認のため平成28年より卒業試験を実施して7年目である。試験内容は、国家試験レベルとし、内容の妥当性については卒業試験検討委員会を立ち上げ検討を行っている。

評価方法は、シラバスに明記している。単位認定の規程に則って実施している。最終決定は、運営会議で決定している。

単位制度では、授業の出席時間が重要であり、単位取得のために必要な時間数カウントを自己管理できるように指導していく必要性を感じている。また、看護学校は単位制であることと看護学校の運営ガイドラインによって総出席日数も重要であることを理解できるように知らせる必要がある。

点検12 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもち、学生の学習の動機付けや支援になっているか

新学期にカリキュラムガイダンスを配布しシラバスを提示している。

事前に各担当から出されたシラバスの検討は行っているが十分とは言えない。新カリキュラムのテキスト、副読本は、様々な教科書を比較検討したうえで本校の学生に見合ったテキストを決定した。

クラスとしては、1年生の入学時アンケートを実施して勉強の習慣等をつかみ、その結果を受けて学習指導を行うように計画しているが、担任により実施にばらつきがある。

V 経営・管理課程

点検1 養成所の設置、教育理念・教育目的、教育課程経営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方について、設置者の意思との一貫性をもって明示し、かつ、教職員はそれを理解しているか

新カリキュラムに関しては、前年度教員の勉強会を実施し共通理解はできていると考える。しかし、教員の入れ替わりの中で、新しい教員にも同程度の理解をしてもらうことが必要になってくる。

点検2 組織体制は養成所の教育理念・教育目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか

点検3 組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・教育目標を達成するために整合性をもってしているか

意思決定システムは、比較的しっかりとした体制をとっていると考えられる。年度初めに教職員にも提示をしている。しかし、十分に機能していない。

教職員の資質向上の必要性は、十分自覚している。ベテラン期・中堅期・新任期それぞれ各期に見合ったレベルアップの方法を検討、実施していく必要がある。

本校の教育の質を担保するために優先すべきは、看護教員の数を増やし多少の入れ替わりがあっても対応可能な人的整備をすることであると考えられる。

点検4 養成所の財政基盤をどのように確保するかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか。

点検5 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか

財政基盤として、年2回の学校運営委員会で予算・決算についての報告と議論がなされている。

朝倉市からは、学生への寮費25,000円補助などを令和6年度から実施できる体制を整えていただいた。

- 点検6 学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもち、整備しようとしているのかを示し、その考え方に基いて整備計画を立案し、実施しているのか
- 点検7 看護・介護の専門教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、整備・改善しているか
- 点検8 学生および教職員にとっての福利厚生施設設備は、養成所が設置されている地域環境との関連からし、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備しているか

管理者は、教育環境の整備と教育方法の拡大のための整備の必要性は理解している。

開校後14年経過しているため建物の劣化も目立ってきた。屋外の網戸点検は、令和5年12月に病院の施設管理課に依頼し点検を行った。現在のところ、網戸落下を引き起こすような網戸は見当たらないということであった。

教材教具の劣化が目立ってきた。また、医療機器も旧型の物や故障しているものも多く、買い替えの時期に来ている。補修及びバージョンアップを計画的に行っていく必要がある。

椅子の破損については、段階的な修理買い替えを検討している。マザールームの椅子は、40脚購入を行った。

スクールカウンセラーに月2回来ていただいている。カウンセラーと協働しながら学生のメンタルのフォローを行っている。教職員は、医師会グループ全体でストレスチェックが実施され、フォローアップも行われている。

新型コロナウイルス感染症対策としては、5類移行後、社会的には規制緩和傾向であるが、本校は実習を控えているため昨年と同じように

- ①学内にウイルスを持ち込まない
- ②感染を予防するための・集団予防・個人予防・環境整備

の考え方を中心に行っていた。

学内の行事；

入学式は、昨年同様全員マスクを着けて参加することができた。保護者は、別室でZoomとした。

学校祭（てふてふ祭）は、病院関係者と講師、保護者に招待状を出し人数制限の中で実施した。

戴帽式は、キャッピングとキャンドルサーピスを行った。保護者は、情報処理室と在宅リモートでの参加とした。病院関係者（1年生実習）に対して来賓の招待状を出した

卒業式は、4年ぶりにピーポット甘木で行った。教職員の中で、実際経験がある者が少なく、以前の動画等を視聴して卒業式のイメージをつけて実施した。

教職員研修は、「看護的思考の基礎」の授業内容である『看護的思考』の基礎を本校がどのような内容で教授するか・ヘンダーソンの看護理論に基づいた看護過程を具体的にどのように教授するかについて共通の考え方を示した。その後教員に対して2回研修会を行った。

学生寮は寮周囲をカバーできるように防犯カメラを設置した。

- 点検9 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか

高等教育の修学支援制度対象機関としての認定を受けている。

専門実践教育訓練給付制度、日本学生支援機構、県奨学金、病院奨学金などで支援を行っている。

スクールカウンセラーに月2回来ていただいている。学生が個人的にカウンセラーに相談できる体制としている。

- 点検10 教育・学習活動に関する関係者（保護者等）への情報提供を行うことによってその協力・支援を得ているか

- 点検11 広報活動は、看護師・介護福祉士等を養成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか

学校が保護者に提供している情報は、「前期・後期の成績通知」などがある。また、随時保護者と連絡を取っている。保護者からの電話も増えてきている。

現在行っている広報活動は、リクルートのスタディサプリ（for school含む）を契約している。沖縄等からの資料請求も増えているため継続していく方向である。For schoolは、十分に活用しきれていないため今後進めていく必要がある。

ネットでの広報活動については、ホームページやインスタグラムなどで情報を発信している。

学校訪問、ガイダンス、高校説明会などは地道に継続していく。高校訪問は、主に副校長と事務長が担っている。副校長が近隣の高校を事務長がそれ以外の高校の訪問を担っている。高校へのアプローチとして、高校訪問は69か所、進路ガイダンスは17か所であった。

点検12 養成所の運営においては明確な将来構想のもとに運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案し、その実施・評価は将来構想との整合性をもっているか

副校長が立案している。年度当初の教務会議で発表されている。特に講師及び実習施設と協力しながら地域の看護学校としての将来構想がある。中長期計画については立案するが実施する人員不足により変更を余儀なくされている。

運営にあたって必要な規程が作成されていなかったり、新たな社会情勢から必要とされる規程などを作成した。

- 1) 新型コロナウイルス感染症 5 類移行に伴う学生への対応
- 2) 感染症に罹患した場合の対応（感染者・濃厚接触者） 5 類移行後（5 月 8 日以降）
- 3) 再実習・補習実習内規
- 4) アルバイトに関する規定
- 5) 書類押印の見直しについて
- 6) ハラスメント防止規程
- 7) 追試験内規
- 8) 再受験内規（追加）
- 9) 学校感染症罹患時の対応（追加）

学生からの声をもっと迅速に反映するようにしていくことが必要である。

教育の倫理は、経年的な懸案である。今年度は、早急に必要とされたハラスメント防止規程について作成を行った。次年度は、入学試験における倫理的配慮について作成する予定である。教育の倫理規定は、作成しただけでは、定着がはかれないため教職員と一緒に考えるという作成方法を考えている。

点検13 自己点検・自己評価体制の意味を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか

点検14 養成所の自己点検・自己評価体制を整え、運用し、その機能は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念・教育目的、教育目標を維持・改善するものとなっているか

自己評価自己点検の重要性の意味は、十分に理解している。自己評価自己点検については、開校当初から内規で規定され、学校関係者評価を取り入れて行っている。

自己評価自己点検は一定の冊子にまとめており、毎年引き続き実施している。年に1回学校関係者評価委員会で学校の評価を頂いている。自己評価自己点検は、ホームページ上に公開をしている。

令和5年度 学校関係者評価委員会

日時：令和6年3月19日（火）19：00～

場所：あさくら看護学校

意見交換 当日の意見交換を集約

1. 学校の外からみた『あさくら看護学校』はどのような印象でしょうか

- ・合格率の高さが魅力だと思う・学校に来た時、挨拶をきちんとしてくれる
- ・他と比べ比較的に学費が安いように思う・先生たちが一生懸命教えてくれる

2. 『あさくら看護学校』の特色はどんなところにあると思われますか

- ・クラスの人数が少ない分チームワークはとれていた（目が行き届いていると感じていた）
- ・行事が多いため、学年を超えて親しくなれる・就職して先輩がいる
- ・夏祭りなど地域の一員としても楽しみだった

3. 今後『あさくら看護学校』に期待することはどんなことですか

- ・自然災害が多いため、災害時に近隣の地域の方々に学校としてできることを考えてほしい。
学校から；災害拠点にはなれないが、災害時の食料・水等の確保は計画的に行っている。また、来年度は防災マニュアルを見直す予定である。
- ・人材として、国際化（外国人留学生の受け入れ等を積極的に行ってほしい）
学校から；本校は、外国人就学生の受験に関する事項を規程として作成している。問い合わせもあるが受験までには至っていない。今後も、規程に則り受験の機会は確保していく予定である。

点検1 教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか、

点検2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか

受験者は、毎年2～3倍で推移していたが、令和6年度受験生は低率であった。3月に一般入試のみを計画していたが、急遽「社会人」の募集も行った。入学生は41名の入学となった。

学生募集委員会を立ち上げ組織的に学生募集に取り組んだことでアイデアの幅が広がった。高校生の目につきやすいホームページやインスタグラムや業者のアプリ等を使い発信の回数を増やしていった。

VII 卒業・就業・進学

- | | |
|-----|--|
| 点検1 | 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか。 |
| 点検2 | 卒業生の到達状況、就業・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか |
| 点検3 | 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就業先との情報交換や調査の実施ができる体制を整えているか。 |
| 点検4 | 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念・教育目標、授業の展開 に活用しているか |

卒業時の到達度を見る方法として「卒業時の到達目標」がある。本校では

1. 看護に必要な知識と正確な看護技術及び臨地に適応できる力：卒業試験・看護技術統合筆記試験と技術試験
2. 科学的思考・論理的思考に基づいた問題解決能力：看護技術統合でのOSCEを使った技術試験
3. 人間をその人がその人らしく、そして統合体として捉えることができる力
4. 他者を思いやる誠実な人間性
5. チーム医療のメンバーとしてのコミュニケーション力
6. 自己学習力と自律する力

上記、2項目については評価できる体制を取っている。

新カリキュラム完成年の来年は、学生の能力をルーブリック評価として明確にしたうえで、学生が各々の課題を明確にして卒業できるようにしていきたい。

卒業時の就業、進学状況については、就業進学場所、県内外、管内外について分析を行っている。本校は、6～7割が福岡県内への就職となっている。母体病院への就職も3割程度である。コロナ禍で一時県外就職が減少したが、関東地区への就職学生も若干増えてきている。

地域社会、国際交流

- | | |
|-----|---|
| 点検1 | 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか |
| 点検2 | 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか |
| 点検3 | 地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り 入れているか |

3年ぶりに地区の夏祭りが開催され本校の2年生が参加をした。その後、会場で集めたアンケートを集計し、『立石地区の健康増進計画を立案する』というレポートを作成し、数名の学生のレポートをコミュニティに持参した。

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 点検4 | 国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか |
| 点検5 | 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか |
| 点検6 | 海外から帰国学生や留学生の受け入れ体制があるか |
| 点検7 | 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか |

「外国人留学生の受験に関する内規」を作成した。問い合わせはあるが受験には至っていない。

IX 研究

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 点検1 | 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）しているのか |
| 点検2 | 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか |
| 点検3 | 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか |

研究を推奨したいが、看護教員の人数・人材の関係で進めるまでには至っていない。したがって、実際に開校以来学会発表した教員は、2名のみに留まっている。

学会入会状況：日本看護科学学会（1名）日本看護教育学会（1名）

医師会病院の研究会が再開されたため、当面は医師会病院研究発表を目指す。

今後は、教員が研究に取り組めるための、研究支援と時間的な支援を行っていくことが必要である。

【まとめ】

新カリキュラムの作成により、教育理念・教育目的・教育目標の意図をすべて明文化したため伝わりやすくなったのではないかと考える。この内容を学内（教職員・外部講師・実習施設等）や学外に明示していき、あさくら看護学校の目指す看護教育を多くの方に知ってもらうことが必要になってくると考える。

今年度は、数年前から続いていた教員の不足が顕著にでた年であった。今後は、多少の教員の入れ替わりがあっても、安定した人数を保つことができるシステムを考えていく必要があると考える。前述した、本校のカリキュラムの意図を理解した上での教育の必要性を実現するためにも、教員の数の確保は最優先の課題である。

今年度も新型コロナウイルス感染症の予防対策を継続していった。感染対策の徹底、体調管理の確認など実習を行っている以上、一般社会よりも厳しい対策を取らざるを得ない状況は続いている。また、一部の行事は再開することが難しい状況も継続しているが、学校祭・夏祭り参加と徐々にコロナ禍以前の学校に戻りつつある状況である。感染予防に気をつけながら、徐々にコロナ前の学校生活に戻していく必要があると考えている。

自然災害関連の休校、休講が年々増加傾向である。本校の地域性から考えて7月と冬期の時間割については自然災害を予測してゆとりを持たせるように考えていきたい。また、リモート授業等でできるだけ休講・休校をしないで良い方法を行っていきたい。

新カリキュラム2年目の今年は、2年生のカリキュラムの実践と3年生のカリキュラムの実施準備を行っていった。能力の獲得を目指すためには、教職員の共通理解と教育方法の工夫が必要であり、来年に向けて教育方法の研鑽は重要な課題である。

ハラスメントについては、ハラスメント防止規程の作成と学生へ相談窓口の啓蒙を行った。学外の相談窓口の開設は今後の課題である。また、教員としての倫理綱領もあわせて作成することが課題である。

入学生の確保も年々厳しい状況となってきている。本校の広報も必要であるが、在学している学生に丁寧な関わりと教育を行っていくことこそ学校の本分であり、その実現のためにも教職員の数の確保と質の向上が大きな課題であると考えている。

学校のコンプライアンスの遵守についても、様々な学校の教育活動を学生に丁寧に説明を行いながら、看護師になるという夢の実現のために必要なことを共に考えていく姿勢を一貫して持ち続けていく必要性を感じている。

朝倉市に唯一ある専門学校として、朝倉市からの支援も受ける事ができるようになったため、地域に根差した地域で活躍できる看護師の育成を今後も行っていきたい。

文責 あさくら看護学校
副校長 瓜生 知佳子